

目次

1. はじめに

2. 学習行動と意識の比較

3. 結論

参考文献

お茶の水女子大学

教育科学研究センター

〒162-8601 東京都文京区三軒三丁目

電話 03-3812-2111

ファクス 03-3812-2112

ホームページ <http://www.u-t.ac.jp>

発行 2001年10月

発行所 教育科学研究センター

印刷所 印刷局

発行部数 100部

定価 100円

ISBN 4-901111-11-1

第3章

比較分析

小学生、中学生、高校生の 学習行動と意識の比較

中西 祐子

(お茶の水女子大学助手)

第1節 学習行動の比較

1. 学校の授業をめぐって

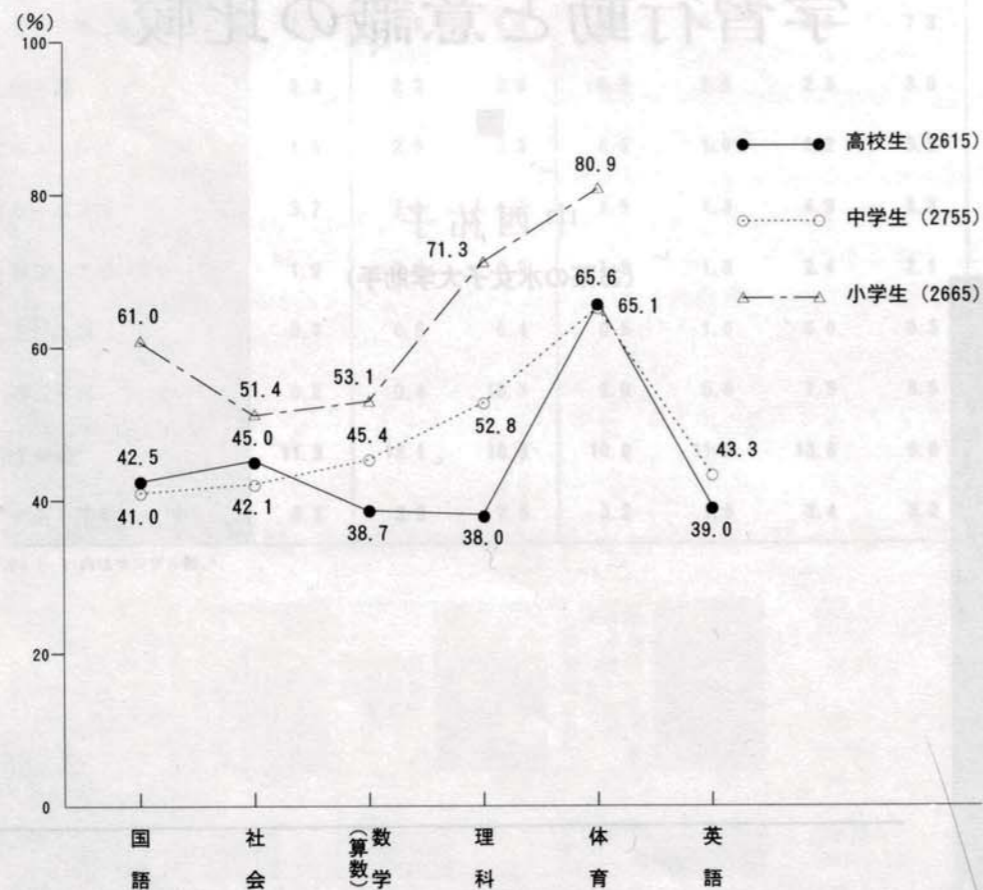
(1) 教科の好き嫌い

【高校生・中学生で減少する「好き」。(図3-1)】

まず、教科の好き嫌いについて。各教科を「好き」と答える者は、小学生でもっとも多く、中学生にかけて減少する。教科別にみる

と、変化が小さいのは社会で、反対に変化が大きいのは理科である。また、数学(算数)、理科の理数系2科目は、学校段階が上昇するにつれ「好き」と答える者が減少しているのも特徴である。

図3-1 教科の好き嫌い



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

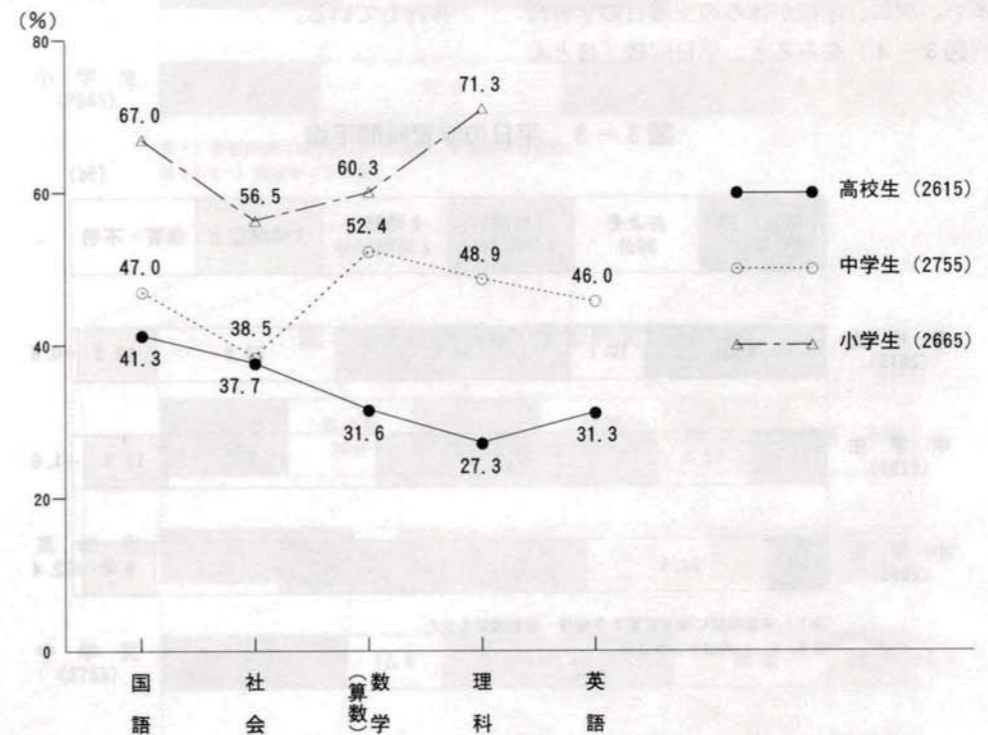
(2) 授業の理解度

【学校段階の上昇とともに理解度は低下する。特に著しいのは理科である。】(図3-2)

次に、授業の理解度をみると、小学生から高校生にかけて段階的に低下していることがわかる。教科別にみると、小学生と高校生で理解度の差が相対的に小さいのが社会であり、

反対に差が大きいのが理科である。また、国語、社会では、小学校から中学校にかけて理解度の低下がみられ、中学校と高校では大きな差がない。一方、数学(算数)で理解度の低下がみられるのは中学から高校にかけてである。なお、理科は学校段階の上昇とともに、理解度の低下が進行している。

図3-2 授業の理解度



注1) 数値は「ほとんどわかっている」と「70%くらいわかっている」の合計。
注2) () 内はサンプル数。

2. 家での勉強

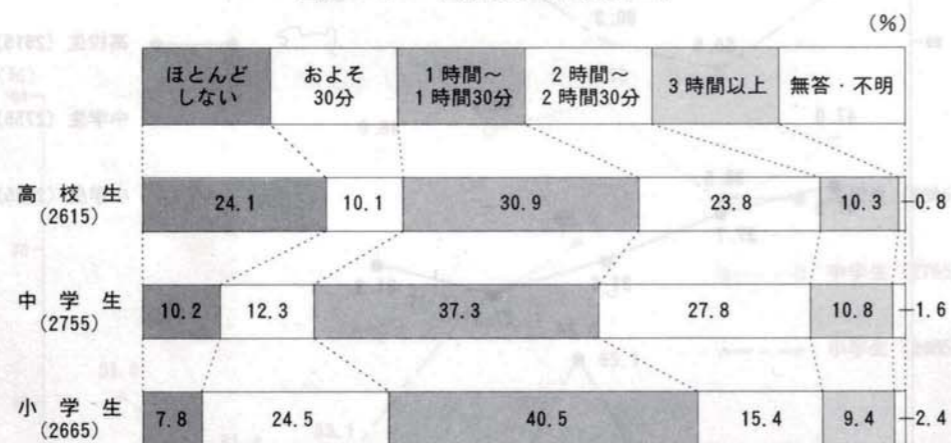
(1) 学習時間

【平日、学校が休みの土曜日ともに「ほとんどしない」者がもっとも多いのが高校生。一方、日曜日に「3時間以上」学習する者がもっとも多いのも高校生である。】(図3-3、3-4、3-5)

平日の平均的な学習時間をみると(図3-3)、「ほとんどしない」者は高校生でもっとも多い。次に、学校が休みの土曜日の学習時間(図3-4)をみると、平日同様「ほとん

どしない」者がもっとも多いのは高校生であるが、同時に「3時間以上」勉強する者ももっとも多い。さらに、日曜日の学習時間(図3-5)をみると、「3時間以上」勉強する高校生が4分の1以上を占めており、学校段階の上昇とともに学習時間が増加していることがわかる。すなわち、学校段階の上昇とともに、家での学習機会は平日から休日へと移行している。

図3-3 平日の学習時間平均



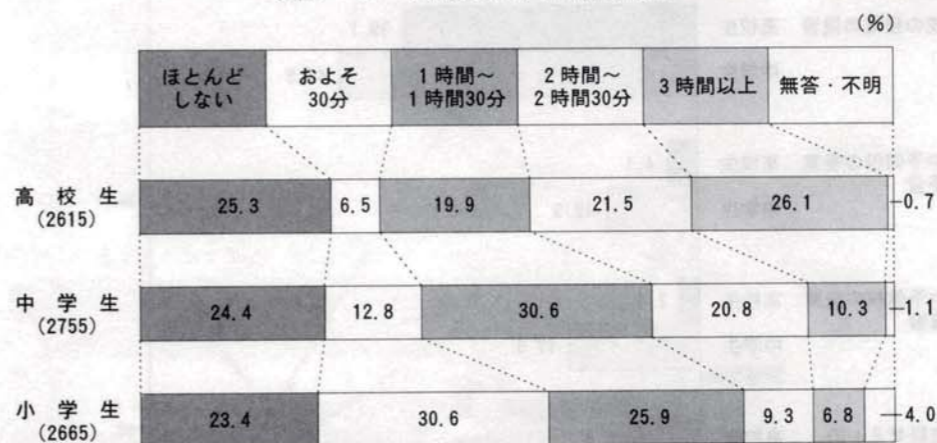
注1) 学習時間には学習塾や予備校・家庭教師も含む。
注2) ()内はサンプル数。

図3-4 学校が休みの土曜日の学習時間平均



注1) 学習時間には学習塾や予備校・家庭教師も含む。
注2) ()内はサンプル数。

図3-5 日曜日の学習時間平均



注1) 学習時間には学習塾や予備校・家庭教師も含む。
注2) ()内はサンプル数。

(2) 家での勉強の内容

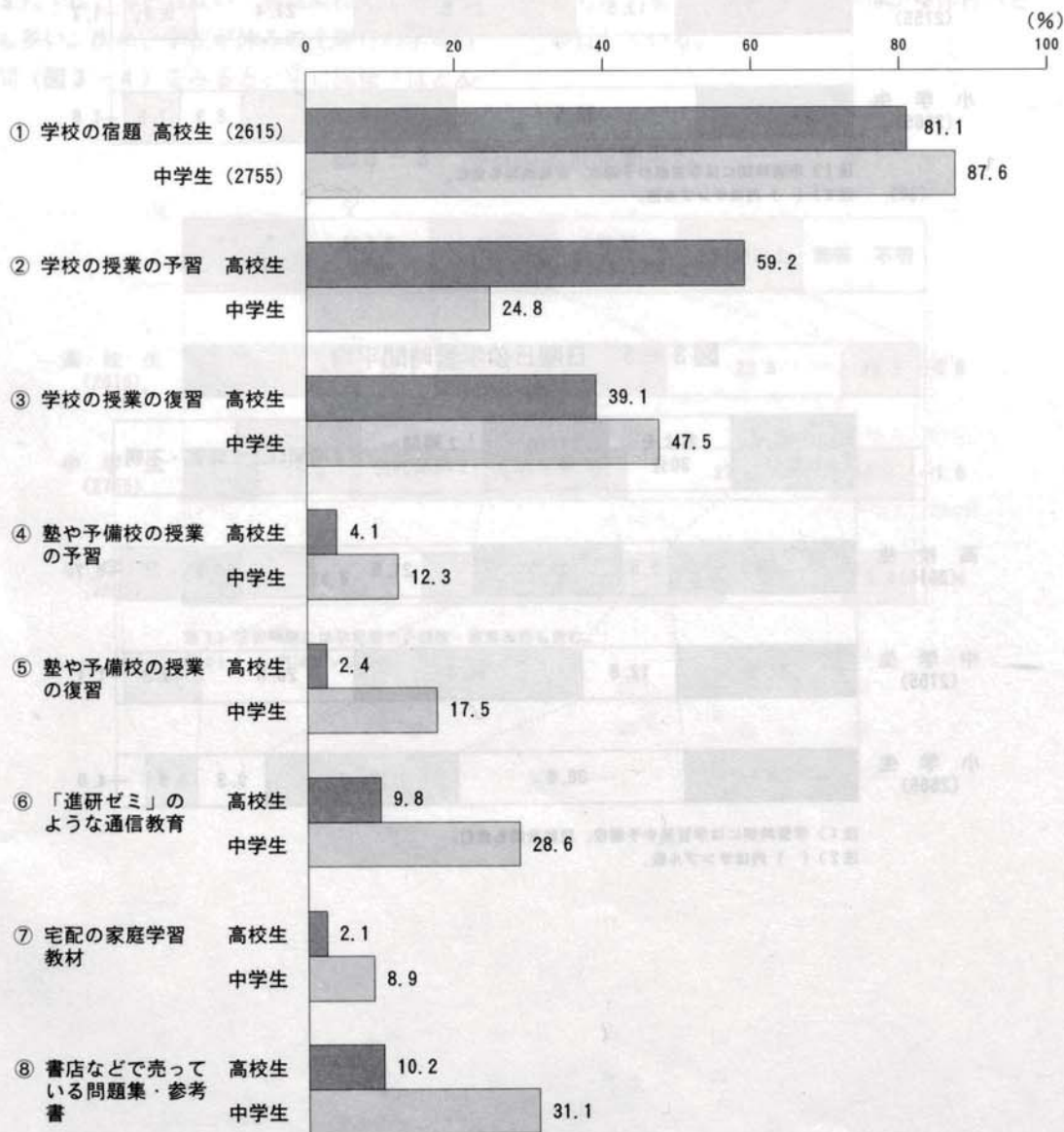
【高校生は、学校の宿題+授業の予習型。中学生は、学校の宿題と塾の予習・復習、通信教育、市販の問題集型。】(図3-6)

家でやっている勉強の種類をみると、高校生、中学生ともに8割以上が学校の宿題を行っている。宿題に加え、高校生は学校の授

業の予習を行っており、中学生は塾や予備校の予習・復習、通信教育、書店などで売っている問題集の勉強を行っている。

すなわち、高校生の学習行動は学校を中心としたものであるのに対して、中学生のそれは、学校と学校以外の学習機会を併用したものであることがわかる。

図3-6 家での勉強の種類



注) () 内はサンプル数。

3. 学校以外の学習機会の利用率

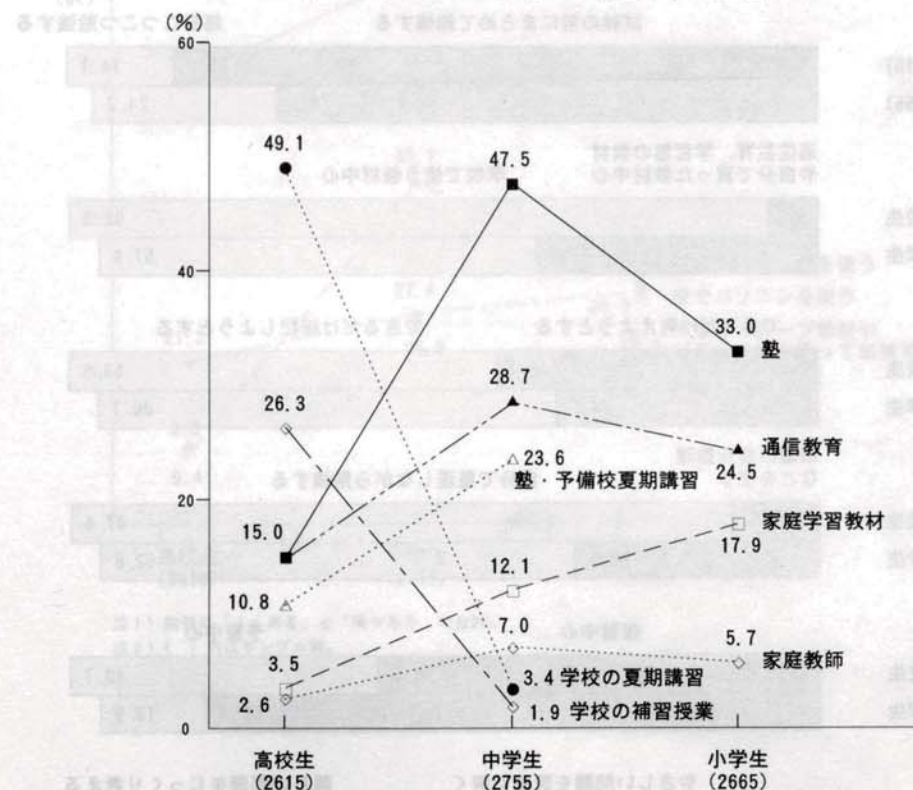
【塾、家庭教師、通信教育、塾・予備校の夏期講習の利用率がもっとも高いのが中学生。学校の補習授業、学校の夏期講習の利用率は中学生よりも高校生のほうが高い。】(図3-7)

学校以外の学習機会(塾、家庭教師、通信教育、塾・予備校の夏期講習)の利用率は、中学生が高校生を上回る。高校生のこれらの学習機会の利用率は、小学生よりも低い。一方、学校が提供する正規の授業外の学習機会(補習授業、学校の夏期講習)の利用率は高校生が中学生を上回る。

全体的に、高校生に比べて中学生の学習は学校以外の学習機会への依存が大きいという結果が得られた。しかしながら、この結果は高校生の大学受験のための学習行動が、県や地域によって大きく異なっていることにも原因があると思われる。大都市圏では一般に学校外の機関(予備校や塾)の利用率が高く、また特定の県では学校補習が重要な役割を果たしていることが知られている。

なお、家庭学習教材の利用率がもっとも高いのは小学生であった。

図3-7 学校以外の学習機会の利用率



注) () 内はサンプル数。

4. 勉強の仕方をめぐって

【高校生の勉強の仕方の特徴は、学校で使う教材中心、予習中心、自分で整理しながら勉強する。】(図3-8)

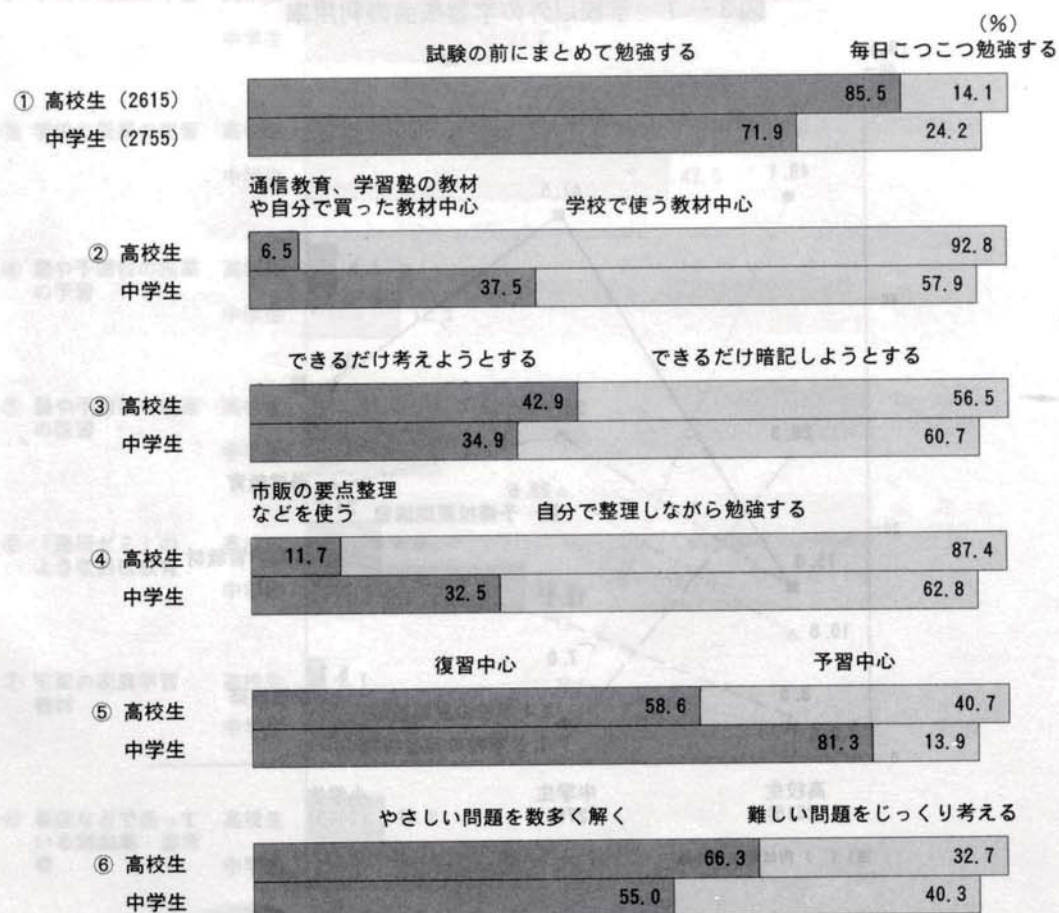
図3-8は、対照的な勉強の仕方をペアにして提示し、自分の勉強の仕方に近いほうを選択させた結果である。

高校生と中学生の勉強の仕方を比べると、高校生の勉強の仕方には次のような特徴がある。①「毎日こつこつ勉強する」よりも「試験の前にまとめて勉強する」者が中学生よりも多い。②「学校で使う教材中心」に勉強する者が圧倒的である。③「できるだけ暗記し

ようとする」よりも「できるだけ考えようとする」者が中学生よりも多い。④「市販の要点整理などを使う」よりも「自分で整理しながら勉強する」者が多い。⑤「予習中心」の者が中学生よりも多い。⑥「やさしい問題を数多く解く」者が中学生よりも多い。

高校生の勉強の仕方は、学校で使う教材中心(②)、予習中心(⑤)など、全体的に、家での勉強の種類(前々項)、学校以外の学習機会の利用率(前項)の知見を裏づける結果が得られている。

図3-8 勉強の仕方の分類



注1) 無答・不明は省略しているため、合計数値は100%にならない。
注2) () 内はサンプル数。

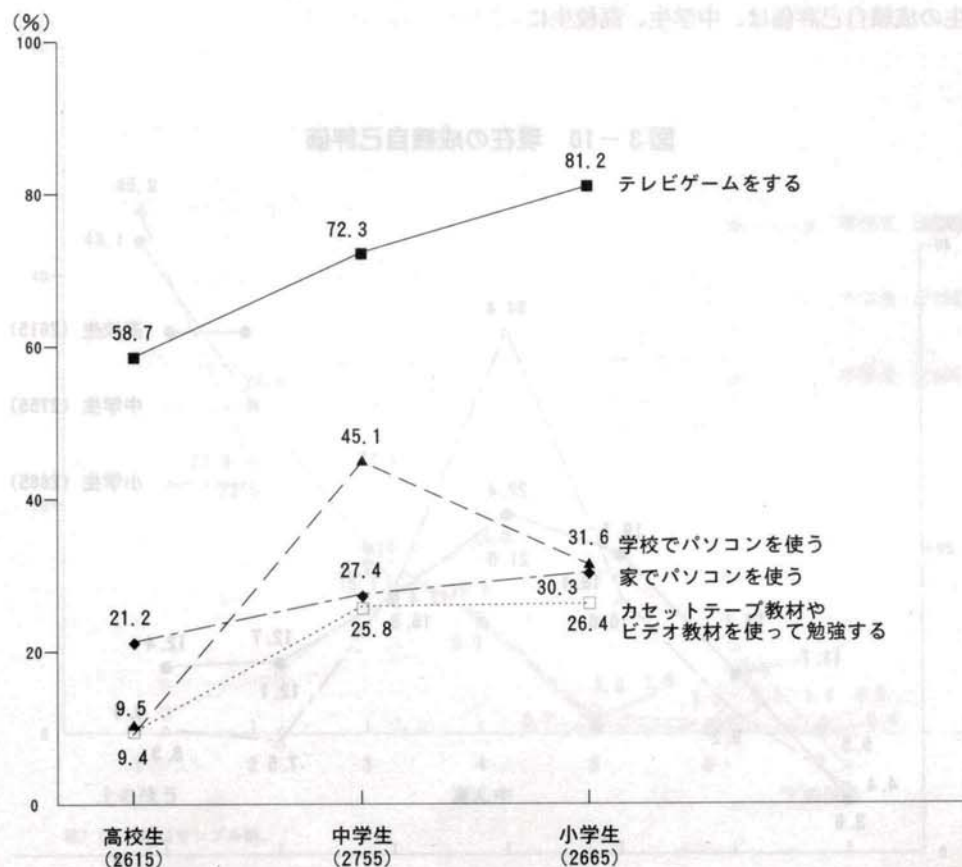
5. メディアの利用について

【学校でのパソコン利用率は中学生がもっとも高い。メディアの利用率がもっとも低いのは高校生。】(図3-9)

学校や家庭でのメディアの利用状況を見ると、高校生のメディア利用率がもっとも低い

ことがわかる。一方、学校でのパソコン利用率がもっとも高いのは中学生であり、半数近く(45.1%)が利用している。なお、テレビゲームをする者がもっとも多いのは小学生である。

図3-9 メディアの利用について



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
注2) () 内はサンプル数。